

労災認定事業場再公開を受けて2008年3月29日-30日に全国一斉のホットラインを開設しました。

急な日程で、広報が十分ではなかったものの、県内でも34件、全国では400件を超える相談が寄せられました。報道は沈静化したものの、アスベスト禍がなくなったわけではもちろんなく、静かにアスベストに対する被害と恐怖は広がっているようです。

#### 鹿児島集約

##### 1.相談者の住所

福岡	12
佐賀	
長崎	1
熊本	1
大分	
宮崎	2
鹿児島	17

##### 2.相談者の被災地

福岡	6
佐賀	1
長崎	1
熊本	
大分	1
宮崎	
鹿児島	9
山口	2
兵庫	2
大阪	1
その他・不明	10

北部九州の産業地帯をかかえる福岡県の相談・被災が多い  
鹿児島は環境曝露が多いが、業務上の曝露も多い。  
関西地区で被災した例もある。

##### 3.相談者の性別

男	女
28	5

##### 4.年齢

40台	50台	60台	70台	80台～
2	2	10	10	1

パートで働く女性の肺ガン。環境曝露についての心配も多い。青年・壮年期の曝露が60才を過ぎて健康に被害を及ぼしていることがうかがわれる。

##### 4.症状

中皮腫	3
肺ガン	6
胸膜肥厚	3
気管支炎	2
じん肺	1
肺気腫	4
咳痰	4
不安	11

肺ガンが多い。肺気腫は多いが、石綿曝露との関わりは薄いとされ、補償の対象にならない。

##### 5.事業内容

製造	12
建設	6
建築	2
土木	1
運輸	4
その他	2

製造業が多いが、石綿製品の製造だけではなく石綿を使用して製造する業種も含まれる。  
運輸関係者も石綿製品の運搬や動力機関に石綿があることによって被爆している。  
建設業では、鉄骨・耐火建築物への使用によって曝露した例がある。

#### 総合

これまでのアスベスト禍報道によって、補償請求後の相談がかなり多くなったと感じた。一方で時効の問題、事業所が使用を認めないことで、補償が妨げられている事例も散見される。  
全国からの報告でもあったが、公表された事業所名を見て連絡した、という事例が大変多かった。